子どもの健康と病気の予防㉘

－経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻薬）－

小宅医院 小宅民子

２０２３年３月、鼻に噴霧する点鼻薬タイプのインフルエンザワクチン「フルミスト点鼻薬」が国内で承認されました。従来の注射で接種するワクチンと違って鼻の中にスプレーを吹きかけるだけなので、痛みがないのが特徴です。

フルミストは、従来の不活化ワクチンと異なり生ワクチンです。インフルエンザウイルスの力を弱めた生きたウイルスを使っており、鼻や喉の粘膜に強い免疫がつきやすく約１年の予防効果が期待できます。

対象年齢は、２歳～19歳未満です。接種回数は１回です。

副反応は、30～40％の人で接種後３日～７日までに鼻汁・鼻閉・咽頭痛・咳などの感冒症状が、数％の人で発熱が出ることがあります。また、重い副反応を起こす可能性は、他のワクチン同様否定できません。

フルミストの《長所》としては、

①高い発症予防効果が期待できる。
②注射が苦手な子どもでも接種ができる。
③２～６歳は特に有効性が高い。
④１回で接種が完了する。

などです。

《短所》としては、

①半数程度に感冒様症状がでることがある。
②弱毒化生ワクチンなので、わずかながらインフルエンザを発症する可能性がある。
③２歳から19歳未満までしか国内認可されていない。
④費用が高い。

などです。

津久見市では、令和７年10月１日から令和８年３月31日までの期間、フルミスト接種者の２歳～13歳未満の小児に１回につき２０００円、13歳以上の中学生に１回につき１０００円の助成がはじまりました。不活化インフルエンザワクチン（注射）も従来通り助成の対象です。

インフルエンザの流行までに免疫をつけておきたい場合は、10～12月にワクチンを接種することが推奨されています。早めにワクチンを接種しましょう。

「経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻薬）」５つのポイント！

①フルミストは鼻に噴霧する点鼻薬タイプのインフルエンザワクチン
②スプレーのため痛みがないのが特徴
③接種対象者は2歳～19歳未満・接種回数は1回
④高い発症予防効果が期待できる
⑤令和7年度10月より費用の助成が開始